

## 7 動物愛護について

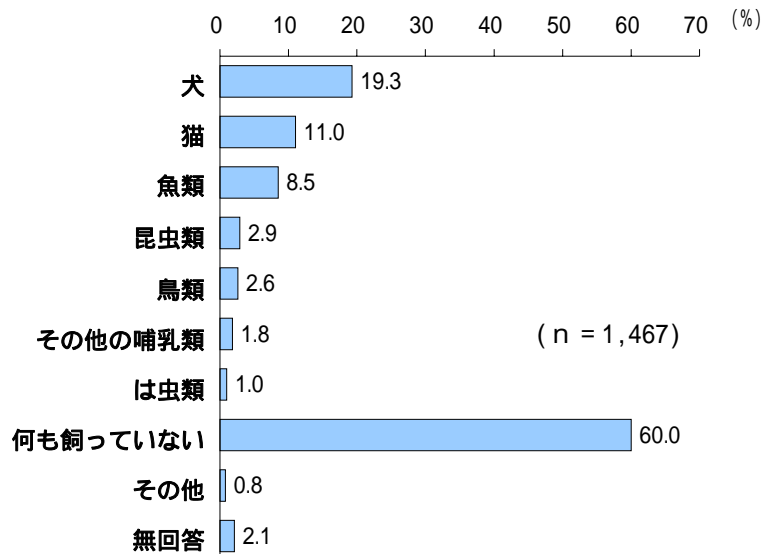
### (1) ペットの有無

「犬」は約2割。「猫」と「魚類」が1割前後

問29 県では、動物愛護の啓発や動物の適正な取り扱いの普及等、動物愛護に係る業務を推進するうえで、県民の皆さんが動物（ペット）についてどのように考えているか知りたいと思います。

あなたはどのようなペットを飼っていますか。（はいくつでも）

<図表7 - 1> ペットの有無（複数回答）



飼っているペットをいくつでも選んでもらったところ、「何も飼っていない」(60.0%)が6割を占める。ペットを飼っている人の中では、「犬」(19.3%)が約2割で最も高く、「猫」(11.0%)と「魚類」(8.5%)が1割前後である。(図表7 - 1)

#### 【地域別】

「犬」、「猫」、「魚類」の上位3項目を飼っている割合が最も高いのは、いずれも“東地域”である。(図表7 - 2)

#### 【性・年代別】

「犬」は男性の40代(23.2%)、女性の40代(22.8%)と50代(27.3%)で2割を超え高くなっている。「猫」は男女とも20代と50代で高くなっており、1割台半ばである。(図表7 - 2)



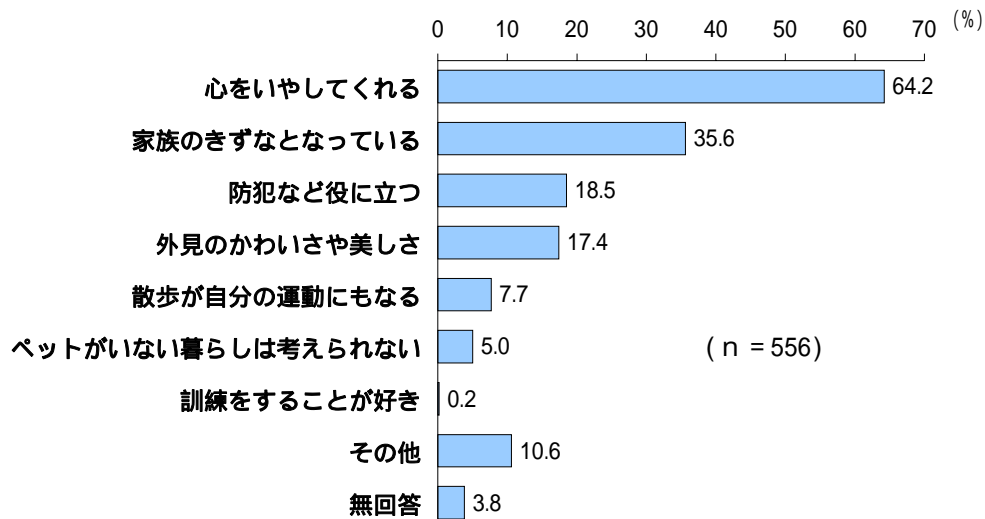
## ( 1 - 1 ) ペットを飼っている理由

「心をいやしてくれる」が6割台半ば

(問29で「1」～「8」のいずれかをお答えの方に)

問29 - 1 あなたは、どういう理由でペットを飼っていますか。( は2つまで)

<図表7 - 3> ペットを飼っている理由(複数回答)



問29でペットを飼っていると回答した556人を対象に、飼っている理由を2つまで選んでもらったところ、「心をいやしてくれる」(64.2%)が6割台半ばで最も多かった。次いで、「家族のきずなとなっている」(35.6%)が3割台半ばで、「防犯など役に立つ」(18.5%)と「外見のかわいさや美しさ」(17.4%)が約2割となっている。(図表7 - 3)

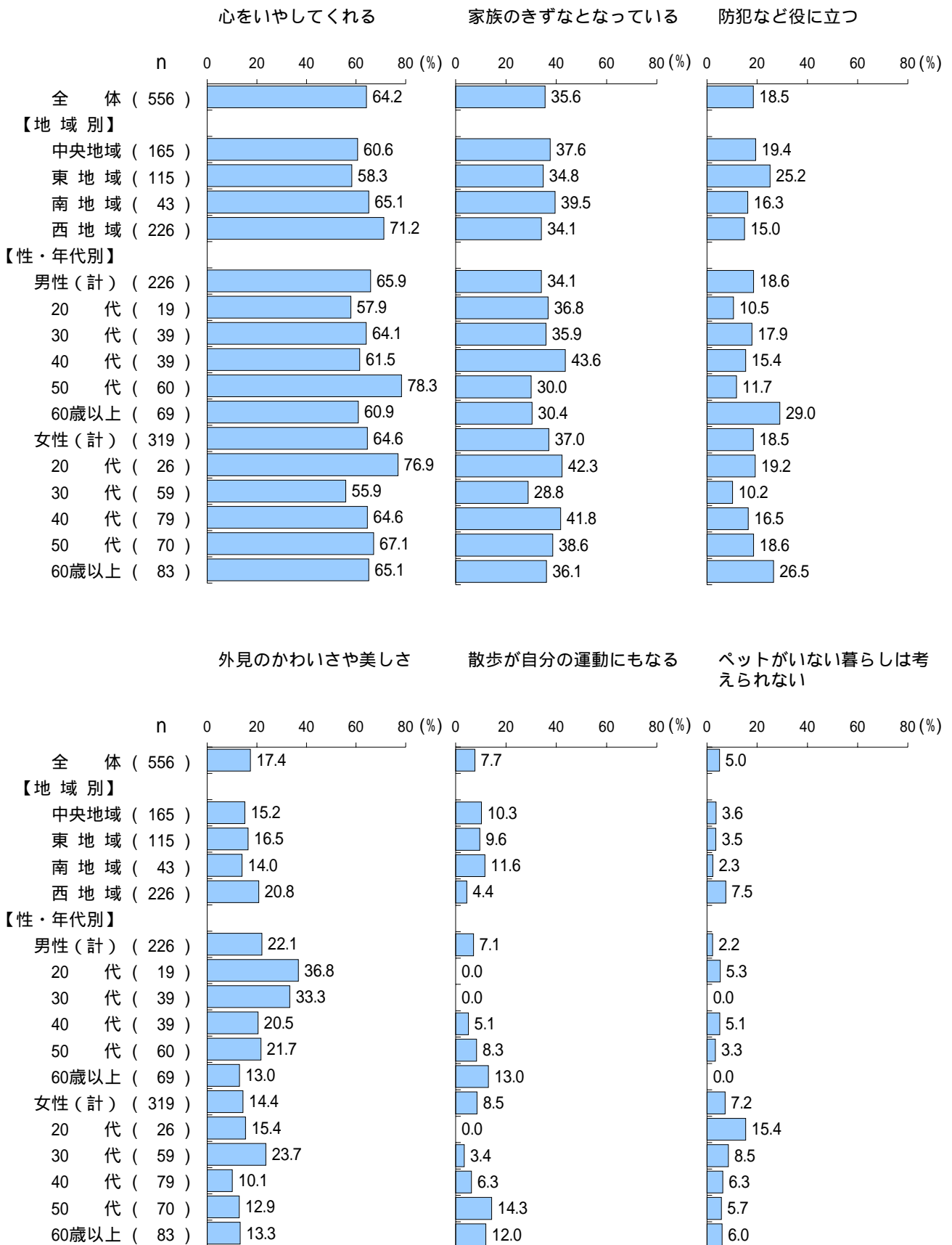
### 【地域別】

「心をいやしてくれる」は、「西地域」(71.2%)で7割を超え最も高く、「東地域」(58.3%)で約6割と低い。「家族のきずなとなっている」は「南地域」(39.5%)で約4割と最も高い。「防犯など役に立つ」は「東地域」(25.2%)で2割台半ばと最も高く、「西地域」(15.0%)で最も低い。(図表7 - 4)

### 【性・年代別】

「心をいやしてくれる」は、男性の50代(78.3%)、女性の20代(76.9%)で7割を超え、他の年代も5割を超えている。「家族のきずなとなっている」は、男性の40代(43.6%)、女性の20代(42.3%)で4割を超え、他の年代もおおむね3割を超えている。「防犯など役に立つ」は、男女とも60歳以上で2割を超え、他の年代も1割を超えている。「外見のかわいさや美しさ」は、男性は20代(36.8%)、30代(33.3%)で3割台半ば、女性は30代で(23.7%)で2割台半ば、他の年代も1割を超えている。(図表7 - 4)

<図表7 - 4> ペットを飼っている理由 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)



## ( 1 - 2 ) 犬の飼い方

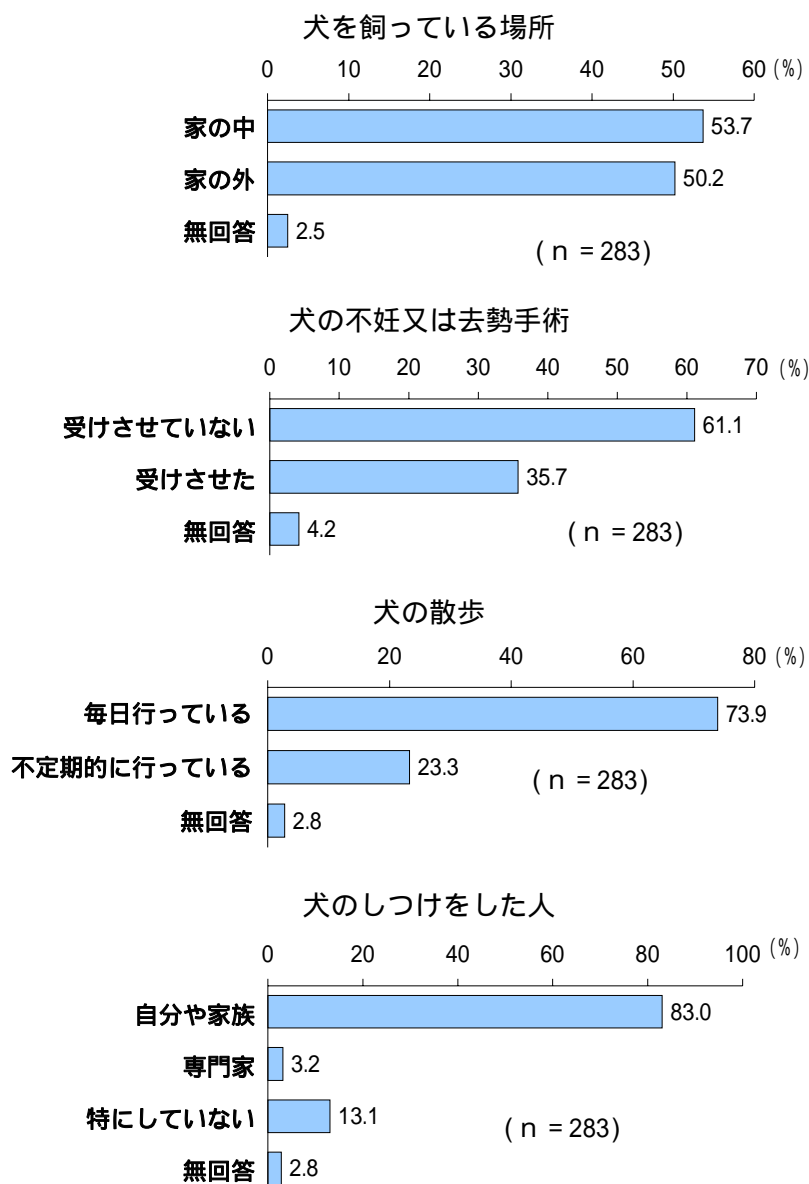
犬を飼っている場所は「家の中」が「家の外」よりやや多い

不妊又は去勢手術は「受けさせていない」、散歩は「毎日行っている」、しつけは「自分や家族」  
 がした人が多数

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 2 犬をどのように飼っていますか。( はいくつでも )

<図表 7 - 5 > 犬の飼い方 (複数回答)



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、犬を飼っている場所は、「家の中」(53.7%) が「家の外」(50.2%) をわずかに上回っている。犬の不妊又は去勢手術は、「受けさせていない」(61.1%) が 6 割を超えている。犬の散歩は、「毎日行っている」(73.9%) が 7 割台半ばである。犬のしつけをした人は、「自分や家族」(83.0%) が 8 割台半ばとなっている。「特にしていない」(13.1%) が 1 割台半ばで、「専門家」(3.2%) は少数になっている。(図表 7 - 5)

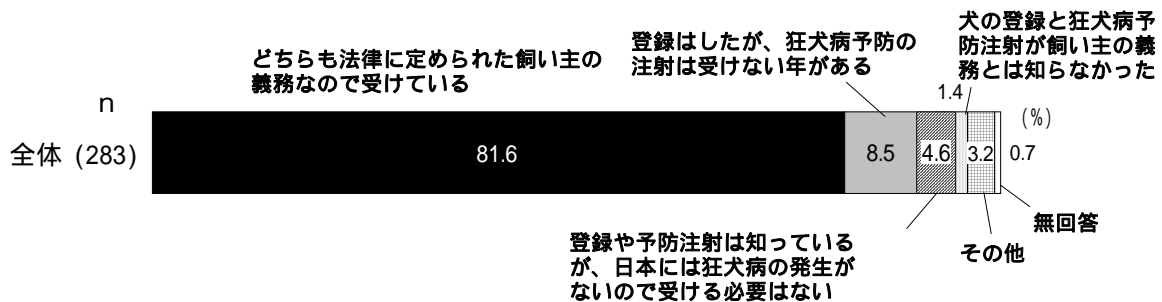
### ( 1 - 3 ) 犬の登録や狂犬病予防注射の状況

「法律に定められた飼い主の義務なので受けている」が8割を超え最も多い

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 3 犬の登録や狂犬病予防注射はどうしていますか。( は1つ)

<図表 7 - 6 > 犬の登録や狂犬病予防注射の状況



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の登録や狂犬病予防注射の状況を聞いたところ、「どちらも法律に定められた飼い主の義務なので受けている」(81.6%) が8割を超え最も多い。一方、「登録はしたが、狂犬病予防の注射は受けない年がある」(8.5%)、「登録や予防注射は知っているが、日本には狂犬病の発生がないので受ける必要はない」(4.6%)、「犬の登録と狂犬病予防注射が飼い主の義務とは知らなかった」(1.4%) といった回答が少数ながらみられる。(図表 7 - 6)

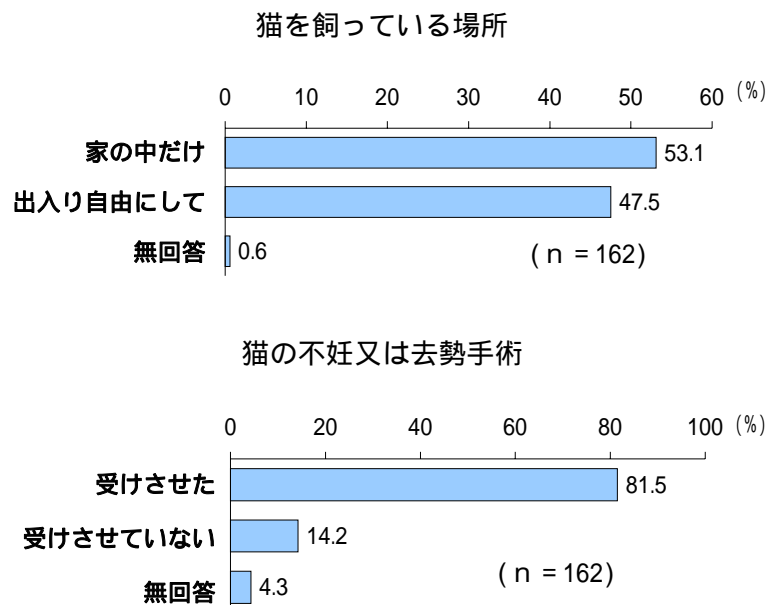
## ( 1 - 4 ) 猫の飼い方

猫を飼っている場所は「家の中だけ」が5割台半ば、「出入り自由」は約5割  
不妊又は去勢手術は「受けさせた」が8割を超える

( 問29で「2 猫」とお答えの方に )

問29 - 4 猫は、どのように飼っていますか。( はいくつでも )

< 図表 7 - 7 > 猫の飼い方 ( 複数回答 )



問 29 で猫を飼っていると回答した 162 人を対象に、猫の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、猫を飼っている場所は、「家の中だけ」( 53.1% ) が 5 割台半ばで、「出入り自由にして」( 47.5% ) は約 5 割となっている。猫の不妊または去勢手術は、「受けさせた」( 81.5% ) が 8 割を超え、「受けさせていない」( 14.2% ) が 1 割台半ばになっている。( 図表 7 - 7 )

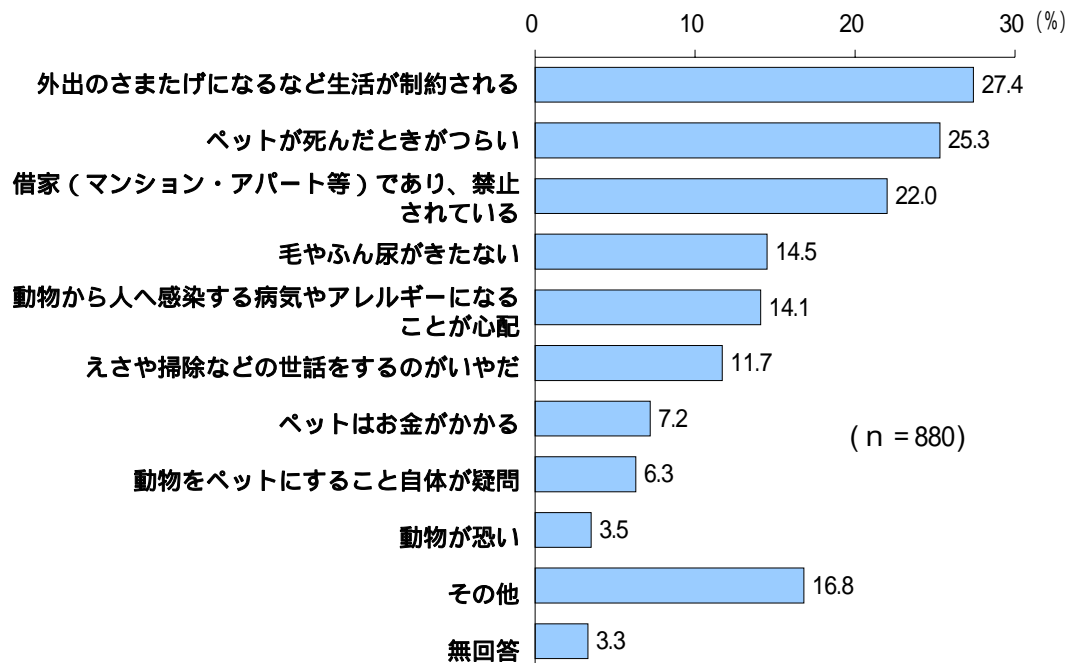
## ( 1 - 5 ) ペットを飼っていない理由

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」が約3割で最も高い

(問29で「9 何も飼っていない」とお答えの方に)

問29 - 5 あなたは、どういう理由でペットを飼っていないのですか。( は2つまで)

<図表7 - 8 > ペットを飼っていない理由(複数回答)



問29でペットを「何も飼っていない」と回答した880人を対象に、飼っていない理由を2つまで選んでもらったところ、「外出のさまたげになるなど生活が制約される」(27.4%)が約3割で最も高くなっている。これに、「ペットが死んだときが辛い」(25.3%)、「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」(22.0%)が2割を超え続いている。(図表7 - 8)

### 【地域別】

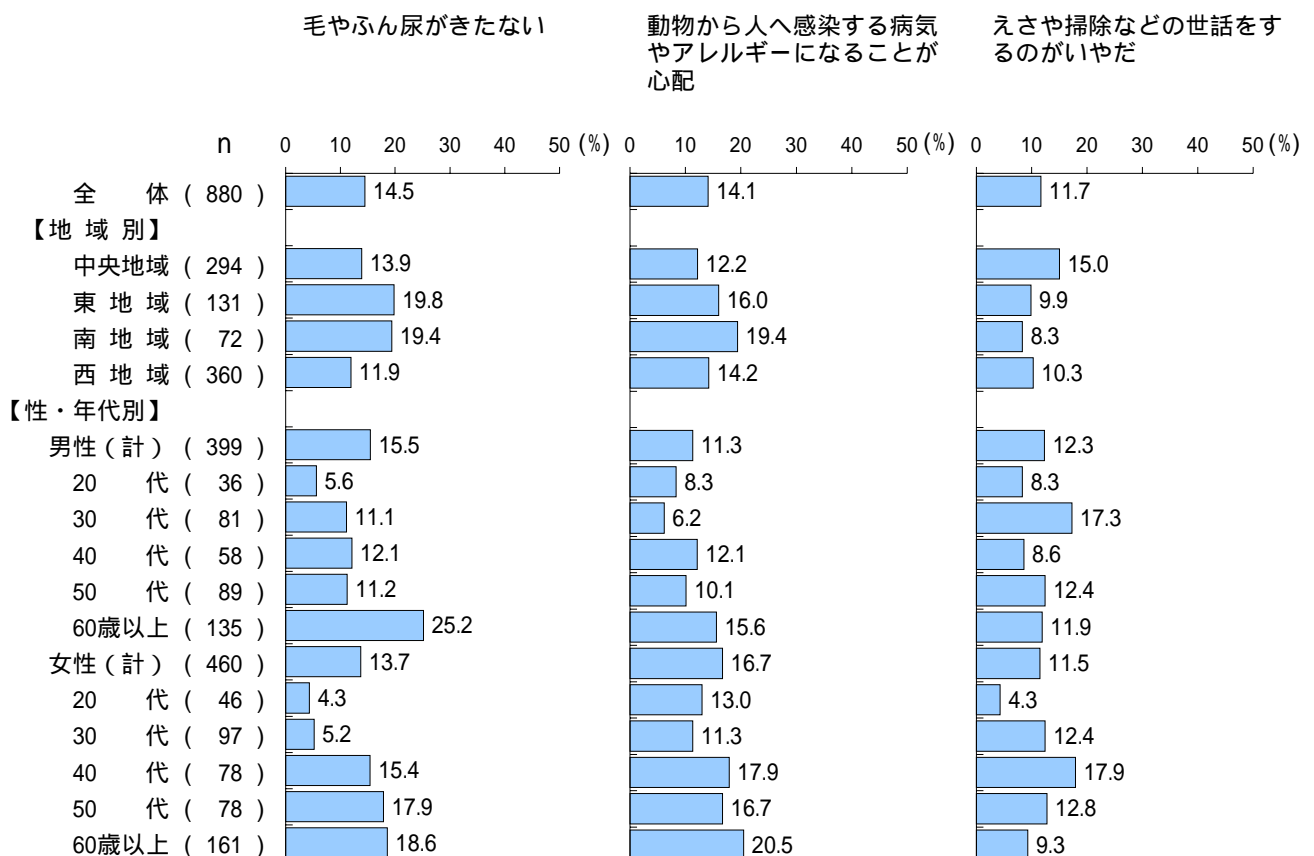
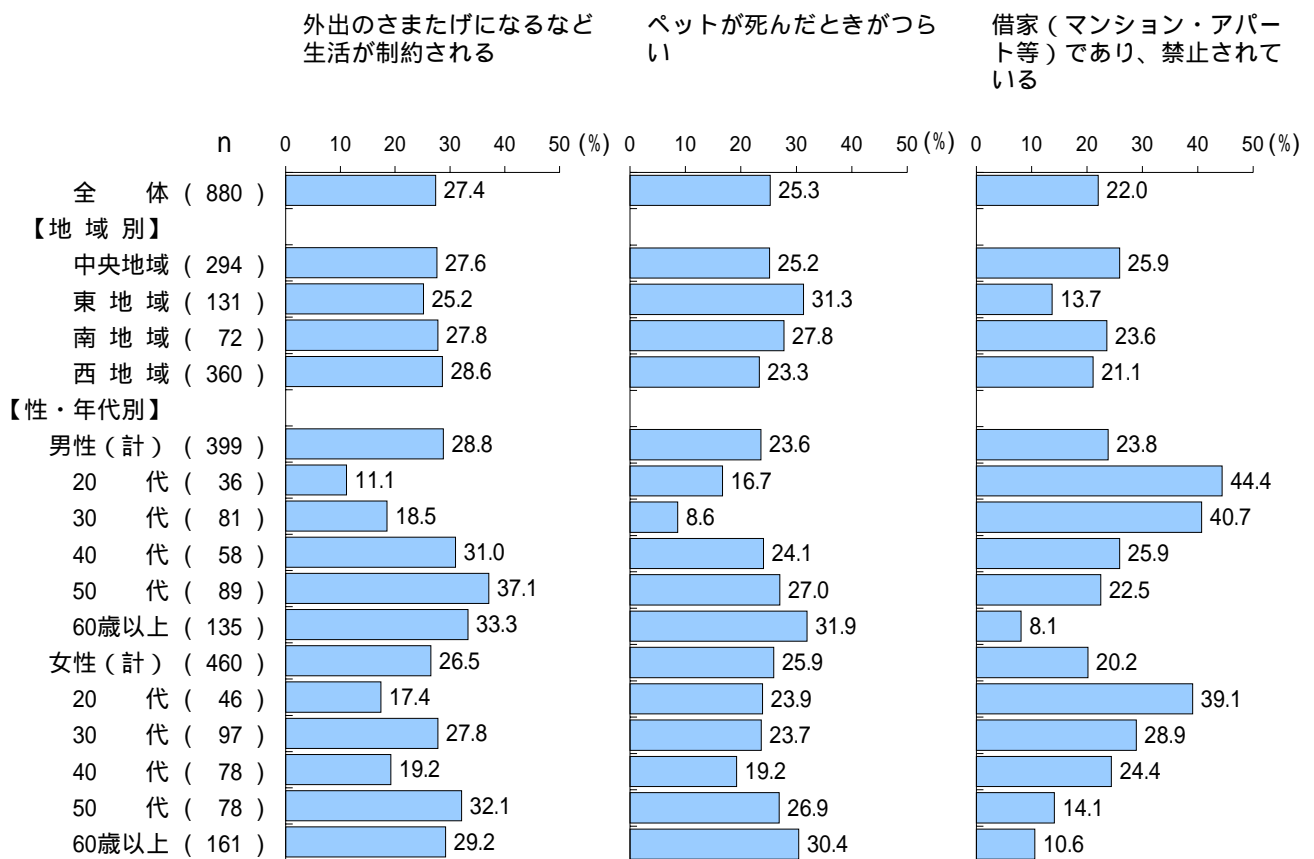
「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、各地域とも2割台後半であり差はない。「ペットが死んだときが辛い」は「東地域」(31.3%)で3割を超え最も高く、「西地域」(23.3%)が最も低い。「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」は「中央地域」(25.9%)が最も高く、「東地域」(13.7%)が最も低い。「毛やふん尿がきたない」、「動物から人へ感染する病気やアレルギーになることが心配」は、「東地域」と「南地域」が他地域より高い。「えさや掃除などの世話をするのがいやだ」は、「中央地域」(15.0%)が最も高くなっている。(図表7 - 9)

### 【性・年代別】

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、40歳以上の男性及び女性の50代(32.1%)で3割を超え、特に男性50代(37.1%)では約4割で最も高い。「ペットが死んだときが辛い」は男女とも50歳以上で高くなっている。「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」は、低い年代ほど高くなっており、特に、男性の20代(44.4%)と30代(40.7%)では4割を超えている。(図表7 - 9)



<図表7 - 9> ペットを飼っていない理由 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

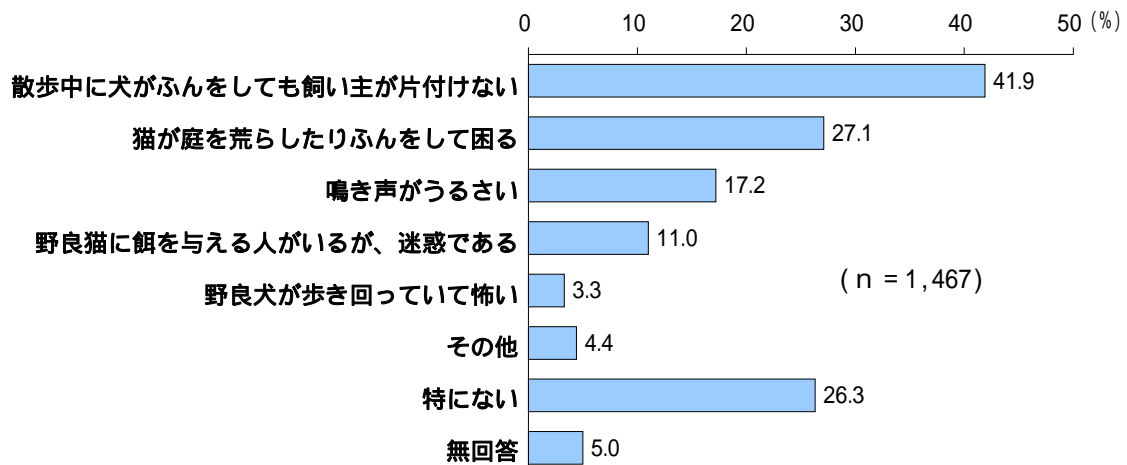


## (2) 犬や猫による迷惑

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」が4割を超え最も高い

問30 あなたの周辺で犬や猫による生活への迷惑はありますか。( は2つまで)

<図表7-10> 犬や猫による迷惑(複数回答)



犬や猫による迷惑を2つまで選んでもらったところ、「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」(41.9%)が4割を超え最も高い。次いで、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」(27.1%)が約3割、「鳴き声がうるさい」(17.2%)が約2割などとなっている。(図表7-10)

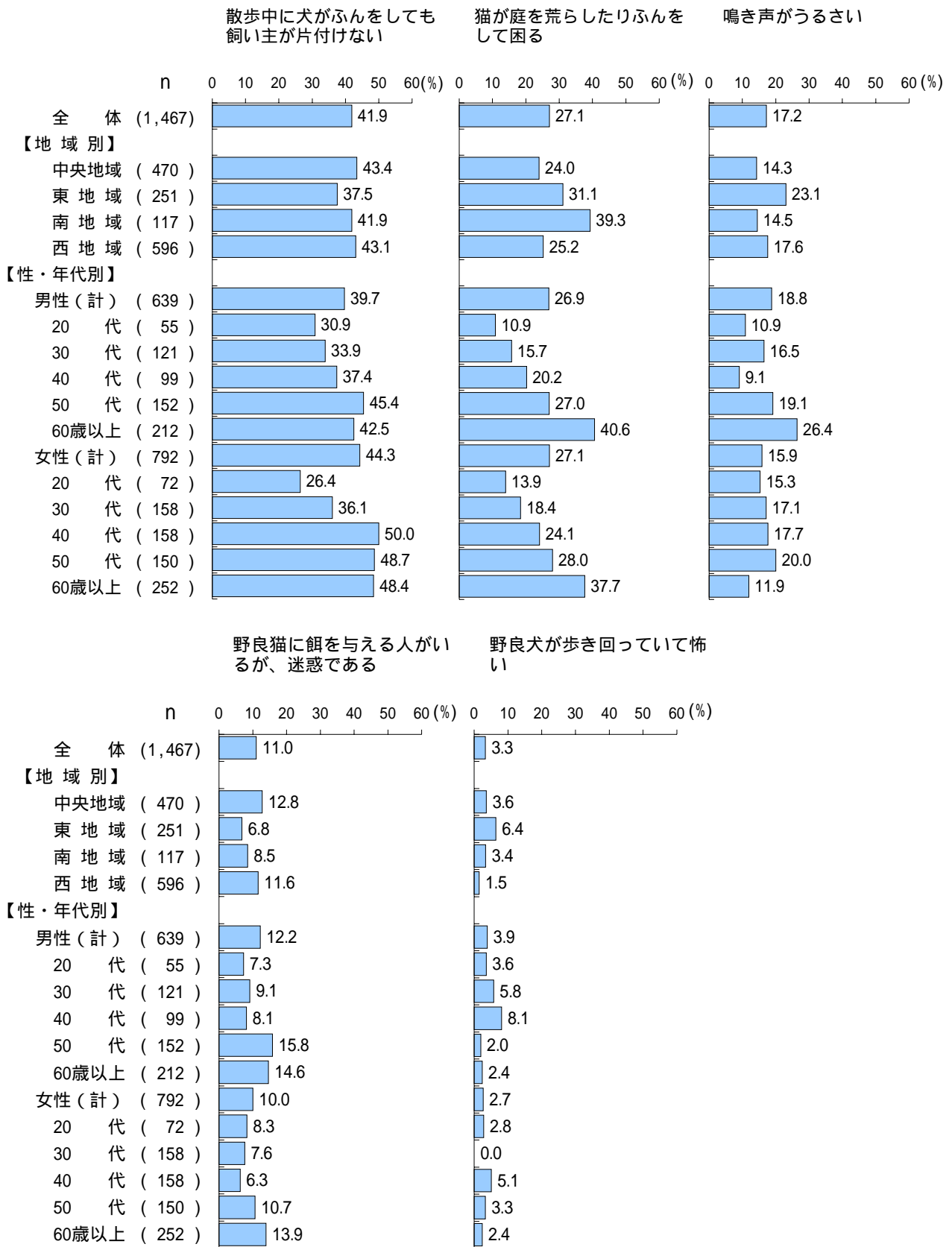
### 【地域別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は“東地域”(37.5%)を除く地域は4割を超えている。「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は“南地域”(39.3%)で約4割と他の地域に比べて高くなっている。また、「鳴き声がうるさい」は“東地域”(23.1%)が他地域に比べ高い。(図表7-11)

### 【性・年代別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は、男性の50歳以上及び女性の40歳以上で4割を超え高く、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は、男女とも年代が上がるほど増加し、60歳以上で4割前後となっている。また、「鳴き声がうるさい」は、男性の60歳以上(26.4%)、女性の50代(20.0%)で2割以上と高い。(図表7-11)

<図表7 - 11> 犬や猫による迷惑 / 地域別、性・年代別

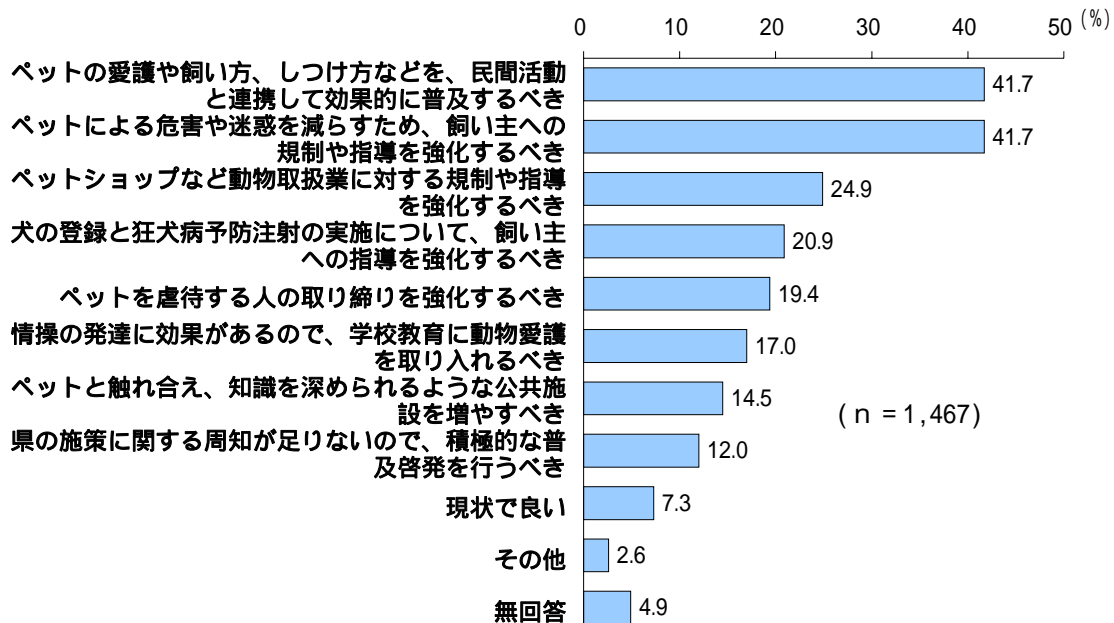


### (3) ペット動物に関して行政が重点とすべきもの

「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき」が4割を超える

問31 県のペット動物に関する行政は、何を重点とすべきと思いますか。( は3つまで)

<図表7-12> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの(複数回答)



ペット動物に関して行政が重点とすべきものを3つまで選んでもらったところ、「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき」(ともに41.7%)が4割を超えている。次いで、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき」(24.9%)が2割台半ばで、「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化すべき」(20.9%)と「ペットを虐待する人の取り締りを強化すべき」(19.4%)が2割前後となっている。(図表7-12)

#### 【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき」は、「東地域」(27.9%)と「西地域」(27.2%)で他地域より高くなっている。(図表7-13)

#### 【性・年代別】

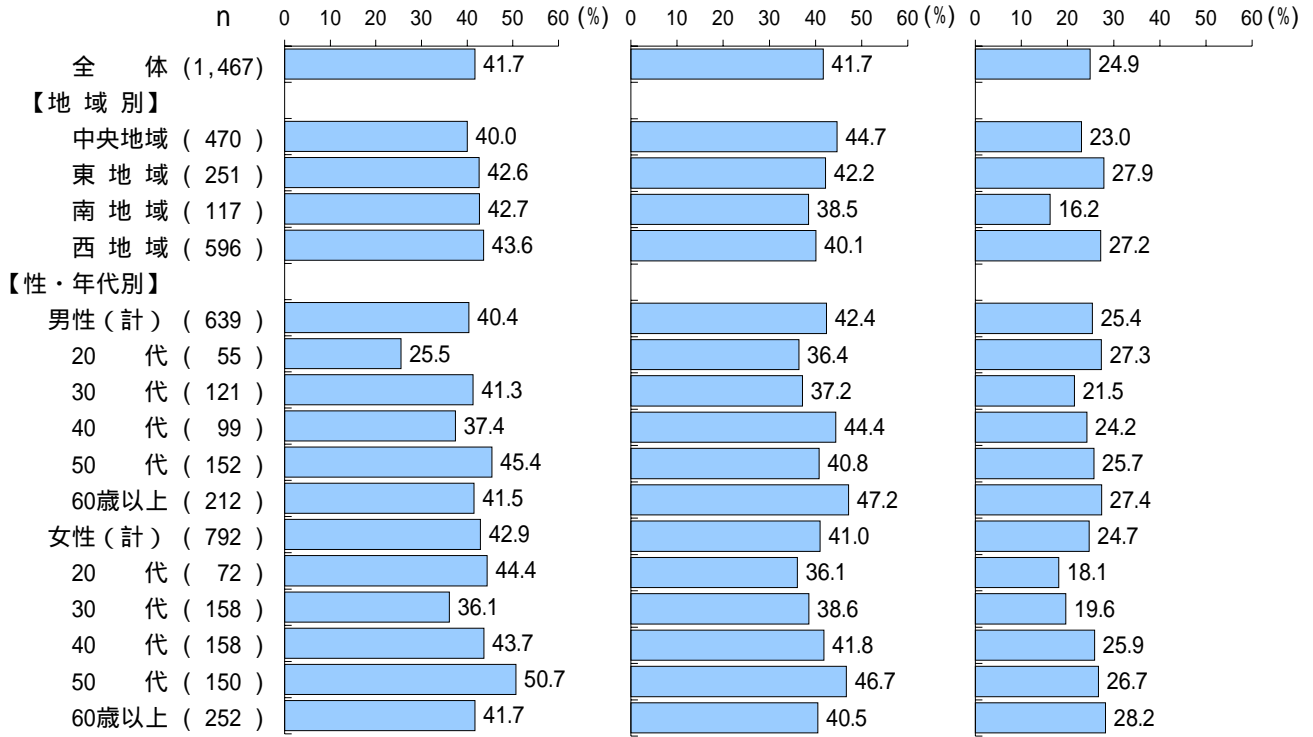
「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき」は女性の50代(50.7%)で5割と最も高く、他の年代はおおむね4割前後だが、男性の20代(25.5%)のみ低くなっている。「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき」は、男性の60歳以上(47.2%)と女性の50代(46.7%)で高く、他の年代はおおむね4割前後となっている。「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき」は、女性の20代(18.1%)と30代(19.6%)で約2割だが、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化すべき」、「ペットを虐待する人の取り締りを強化すべき」は、男女の20代が2割台半ばから3割台半ばと目立って高くなっている。(図表7-13)

<図表7 - 13> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの / 地域別、性・年代別(上位6項目)

ペットの愛護や飼い方・しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき

ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき

ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき



犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化すべき

ペットを虐待する人の取り締りを強化すべき

情操の発達に効果があるので、学校教育に動物愛護を取り入れるべき

